

実践記録

67

シリーズ

第54回新潟県公民館大会 実践事例発表2から 5日制で訪れた地域の出番

大島村公民館 生涯学習係長 小山卓男

1 大島村の概要

大島村は東頸城の中央部、上越市と十日町市の中間に位置し、共に30kmの距離にある。総面積約72km²で南北に20kmと細長く、周囲を山々に囲まれた自然豊かな農山村である。平成9年春、待望のほくほく線も開通し、農業と山里文化を糧として都市との交流を進めている。人口は2,500人ほどで、少子高齢化は県内でも著しい。平成9年、村内の四小学校が統合して一村一小学校となり、現在小学生は106人、中学生は67人である。

2 村の生涯学習の現状

過疎化や少子高齢化が進むなか、豊かで活力ある地域社会を創造するため、大島村では、人材の育成と生きがいの追求、心ふれあうコミュニティづくりなどを目標に、生涯学習事業に取り組んでいる。特に、地域の特性を活かした地域コミュニティづくりは、学校の完全週5日制に対応した子どもたちの週末の体験活動を通じて、よりいっそうの推進を図っている。事業を推進するうえで、公民館本館をはじめ旧小学校区単位に設置された四つの分館が大きな役割を担っている。

また、平成3年には全国に向けて音楽村を宣言。平成12年からは村全体を美術館とする村は大自然の美術館構想を推進するなど多彩な芸術文化活動を展開している。

3 5日制で訪れた地域の出番

5日制のねらいは、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たして、子どもの生きる力を育むこと。それには、地域と家庭の教育力の向上がなくてはならない。第2・第4土曜日=家庭

従来から休みである第2・第4土曜日は、親も休みの人が多い。各家庭で家族がゆっくりふれあって、ゆとりを持って過ごす。

第1・第3土曜日=地域・公民館

新たに休みとなった第1・第3土曜日は、まだまだ親は仕事の人が多い。子どもの数が限られていて活動に限界がある。

第1土曜日は、地域で子どもたちの活動を支援。

第3土曜日は、全村を対象に公民館で普段できない活動を展開。

1町村でできない体験は、広域連携で。

4 おおしまウィークエンドひろば

○地域活動の日 (第1土曜日)

旧小学校区の菖蒲・大島・保倉・旭の4地区で、地域が主体となり週末の体験活動を全面的に支援していく。地域の自然や歴史を活用して地域の魅力を発見、再認識してもらう。農業体験、自然体験や地域の名人による技の伝承など地域だからこそできる事業を展開している。(平成14年度延べ参加人数：小543人・中192人・高67人)



わら細工 (保倉地区：15年3月)

○全体活動の日 (第3土曜日)

野外ひろば・創作ひろば・スポーツひろばを公民館本館で展開。農業体験や自然体験は地域活動が担ってくれるので、芸術文化体験やニュースポーツの普及などを重点的に行なっている。地域活動と全体活動を合わせたなかで、子どもたちが様々な体験ができるように配慮している。(小286人・中69人・高19人)



キンボール教室：15年5月

○広域連携事業

大島村・浦川原村・安塚町の3町村の連携で行なっている。14年度はアルビレックスサッカー教室を開催。少人数の子どもたちにとっては貴重な交流の場でもある。(小15人)

5 事業推進体制=ウィークエンド推進委員会

小中学校、小中学校PTA、子ども会、公民館本館・分館、地区振興協議会、文化団体、老人クラブ、社会教育委員、体育指導委員、教育委員会の代表で組織。

各地区では、地区振興協議会、公民館分館、子ども会、各種団体の代表で事業を計画し推進している。地域をあげての取り組みであり、地区振興協議会と公民館分館の果たす役割が大きい。

6 成果と反省

全体活動は毎回30名前後の参加者があり好評である。回を重ねるごとに保護者の参加も増えてきており、公民館事業への関心が高まってきている。また、子どもたちへの案内や参加取りまとめを学校が行なうなどウィークエンド事業を通じて、学校と公民館の連携が深まった。

地域活動に関しては、地域で計画を立てて一年を通じて事業を展開したことで、地域の子どものは地域で育てるという気運が生まれてきた。

一方で反省点も数多くあった。

計画を立てる時間が少なかった。各子ども会の計画ができた後にウィークエンドの計画が策定された。新規に事業が増えた分、行事が重なってしまった。

子どもや保護者の理解が少ない。



計画に子どもの意向が反映されていない。お客さんになりがち。

中学生は部活動があり参加が少ない。



中学生・高校生向けのメニューが少ない。

7 2年目に向けて

○村の行事や他の団体の事業との調整を図るため、昨年12月から本年度の事業計画づくりに取りかかった。計画に子どもの意向が反映するよう子ども会などに働きかけた。

計画策定のながれ

子ども会が地域活動の計画案策定 → 子ども会が計画案策定 → 地区で計画策定 → 全体活動の計画策定 → 村の行事との調整 → 再度地区で調整・学校へ事業概要を連絡 (事業の重複がないように) → 事業計画の決定

○高校生のボランティア登録

全体活動でのアシスタントやリーダー的役割を担ってもらう。

○地域コーディネーターの配置

地域における学習・体験ニーズの把握、指導者の発掘。地域活動における指導者の確保や各団体との連絡調整。

○地域教育力・体験活動推進協議会の設置

週末の学習・体験活動をはじめボランティア活動・体験活動を総合的に推進し、地域の教育力の活性化を図る。

8 課題

「おおしまウィークエンドひろば」は週末の活動としてスタートしたが、ボランティア活動や体験活動だけでなく、青少年の健全育成も含め村の生涯学習の核となる事業に育てていきたい。子どもたちの主体的な参画を図っていくには、家庭教育の充実も欠かせないし、ある程度の時間と粘り強く事業を継続していくことが大切だ。

地域活動には子どもたちだけでなく、地域住民が共に学び自ら高めていく活動が期待される。地域で考えて行動し、地域行事に子どもたちを積極的に取りこんでいくことで、地域の活性化が図られると信じている。